

# スギヒラタケ(通称:杉かのか)は食べないようにしましょう

スギヒラタケは、スギ、マツ等の針葉樹の切り株や倒木に8月から10月頃にかけて発生し、傘が2～6 cm程度の大きさで、耳形又は扇形の白いきのこがいくつも重なり合って群れて生えるのが特徴です。



▲スギヒラタケ

昔から、野生のものが広く食べられていましたが、10年前頃からスギヒラタケが原因と考えられる病気(急性脳症:意識障害やけいれんが主な症状)が多数報告されるようになってきました。

農林水産省や厚生労働省が調査研究を実施していますが、スギヒラタケが安全に食べられるきのこかどうかは現時点ではわかっていませんので、食べないようにしましょう。

## ◎ブナハリタケ(通称:本かのか)は別種のため、食べることができます

スギヒラタケがスギ、マツ等の針葉樹に生えるのに対して、ブナハリタケはブナ等の広葉樹の枯れ木や切り株に群生します。スギヒラタケには傘の裏側に白色のヒダがついていますが、ブナハリタケには傘の裏面にヒダが無く、白色の針状の突起がぶら下がっているのが特徴です。

他のきのこにあっても、食用かどうか見分けがつかない場合には、食べないように注意しましょう。

●お問い合わせ 農林建設課 ☎37-2113 (担当:田中)

# 七ヶ宿町放射性物質除去土壌仮置き場の放射能測定結果

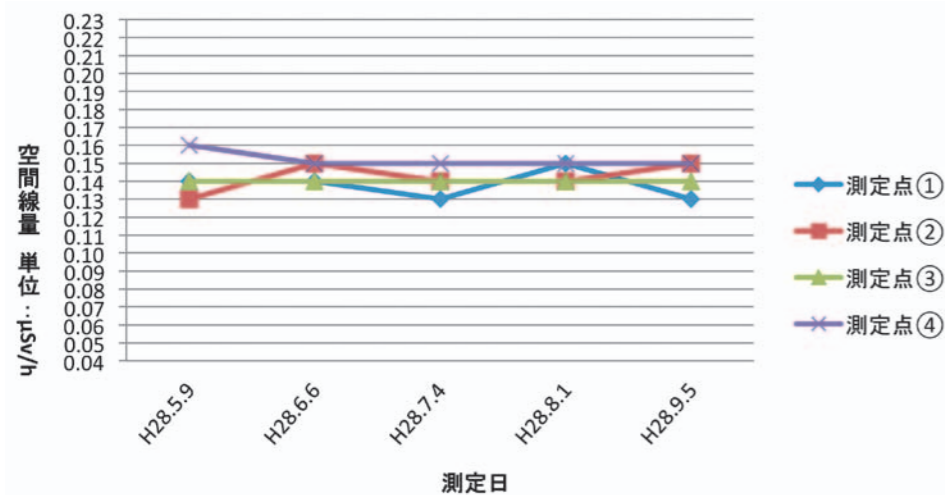
柏木山放牧場に隣接する仮置き場の測定結果をお知らせします。

平成28年9月5日に柏木山放牧場の空間放射線量及び地下水放射性物質量を測定した結果、以下のとおりとなりました。

平成25年5月から空間線量を測定していますが、追加被ばく量が年間1 mSvを超えないように管理され仮置き場が安全に保たれていることを表しています。

※ 仮置き場内の4点を定点とし測定しています。

仮置き場の空間線量の推移



## ○地下水の測定結果

単位: Bq/kg

調査項目	測定値
放射性ヨウ素 (I-131)	不検出
放射性セシウム (Cs-134)	不検出
放射性セシウム (Cs-137)	不検出

測定開始時から不検出となっています。

●お問い合わせ 総務課 ☎37-2111 (担当:東根)

# 10月1日から「赤い羽根共同募金運動」がスタート ～ほんの小さなやさしさで広がる大きな支援の輪～

赤い羽根共同募金は、民間の運動として永きにわたりご支援に支えられ、70回を迎えました。社会が大きく変化するなかで、様々な地域福祉の課題解決に取り組み、民間団体を支援する仕組みとして、また町民のやさしさや思いやりを届ける運動として、共同募金は住民主体の運動を進めています。

こうした幅広い活動を継続し、さらに充実させてゆくために、10月1日より各地区の民生委員さんが各戸に伺わせていただきますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 平成27年度共同募金運動結果

運動期間	平成27年10月1日～12月31日	
実績額	543,348円	
内訳	個別募金	501件 533,100円
	職域募金	1,837円
	学校募金	4校 4,560円
	街頭募金	1回 3,851円
(当該年度の募金は全額宮城県共同募金会へ振込みをしています。)		

## 平成27年度募金の使い道

配分額	456,556円 (平成26年度実績より配分)	
内訳	421,870円	社協に配分 34,686円 共同募金会
※実績全額は翌年度配分されません。赤い羽根だよりに掲載しているように、さまざまな事業に使われています。		

社協に配分された資金から、次の事業に助成しています。

事業名	参加数	備考
在宅高齢者お食事会事業(湯原地区)	28名	
七ヶ宿町敬老の集い事業	225名	
夏休み福祉体験ワークキャンプ事業	14名	
「安心ボックス」購入及び配布事業	8名	平成15年度より70歳以上の一人暮らし又は二人暮らしの世帯に支給
地域福祉団体助成金交付事業	2団体	住民の福祉向上に貢献する各種団体・ボランティア団体
除雪活動支援助成金交付事業	3地区	町内における除雪作業を行っている地区のボランティア団体
社協だより発行事業		
なごみお茶会事業	13回	延べ112名参加
赤い羽根街頭募金活動イベント経費		



●お問い合わせ 七ヶ宿町共同募金委員会事務局 (七ヶ宿町社会福祉協議会)  
☎37-2271 FAX37-2272 (担当:吉野)